

I 目指す学校

都民に信頼される教育活動を基盤として、個々の障害の状態等に応じた専門的な教育を行うことにより、生きる力を養い、分かる力を高め、地域社会の一員として主体的に社会参加・自立し、共生社会実現に向けて、生涯にわたり心豊かに生きていく人材を育成する学校

【教育目標】

児童・生徒一人一人の人権を尊重し、個々の障害の特性に応じた教育を推進するとともに、豊かな人間性や社会性をはぐくみ、自立し社会参加できる児童・生徒を育成する。

- (1) 基本的な生活習慣を養い、健康で豊かな心と身体をつくる。
- (2) 豊かな感性と、自分を表現する力を育てる。
- (3) 自ら考える力、学ぶ意欲を育てる。
- (4) 社会参加・自立に向けて生活する力を養い、働く意欲を育てる。
- (5) 仲間を思いやり、ともに活動する力を育てる。

【肢体不自由教育部門の教育目標】

健康で豊かな心と身体作りを基盤として、専門機関等と連携して学力や意思疎通する力の向上を図り、社会参加・自立に向けて、積極的に取り組む人間を育成する。

【知的障害教育部門の教育目標】

身辺自立等の生活に必要な基本的な力を養うとともに、表現する力や考える力の向上を図り、地域社会に積極的に参加・貢献できる人間を育成する。

【校訓 “向学虹輝”】

いくつもの色が連なって輝く虹となるように、児童・生徒一人一人がその個性を発揮し、輝かしい未来を掴む為に日々の学びと真剣に向き合う”その積み重ねを大切にす。

II 学校スタッフの行動指針 (学校スタッフ：教員、養護教諭、学校介護職員、学校看護師、企画室職員、栄養士等の総称)

目指す学校の実現のために私達は、児童生徒・保護者・地域・都民の信頼のもと

- ・東京都職員として、教育公務員として、児童・生徒の規範モデルとなる誇りある行動実践に努めます。
⇒体罰根絶を前提とした人権尊重の推進。クリーンデスクを含む個人情報保護と紛失事故防止の徹底
- ・鹿本クオリティ・ファイルの遵守と学園教職員として誇りある行動実践に努めます。
⇒スピリット&マナー／学園の教育理念の理解&社会人・教育公務員としての自覚と実践

III 中期的目標と方策

本校は11年目を迎えた。コロナ渦や社会状況及び価値観の急激な変容の中、本校を含めこれからの特別支援学校は、「自立と社会参加の実現」と「誰も取り残さず、全ての児童達の可能性を引き出す学び（個別最適な学び・協働的な学び）の実現」を目指す必要がある。従って私達学校スタッフは、鹿本学園としての揺るぎない伝統を継承しつつ、様々な変容に対応できる改革・改善を推進していく。そのため、「Change：変化への対応・襲にとらわれない柔軟性」「Challenge：新しい挑戦」「Connect：つなぐ・つながる」をスローガンとして様々な教育活動にあたる。特に「つなぐ・つながる」取組を重要視していく。

一方、学校スタッフが元気になる取組、より「ウェルビーイング」な状態になるため教員の働き方やライフ・ワーク・バランスの推進をこれまでと同様に努めていく。

1 併置型学園としての魅力・特色を充実・発展させ、発信・拠点を推進（地域支援・連携の充実）

切れ目のないトータルな支援体制の構築を目指すとともに 通学区内の学校及び就学前・高等部卒業後の施設等の特別支援教育に関する理解・啓発を深める連携を進める。（センター的機能の発揮）また、障害児・者に関わる人材育成に努める。（大学・専門学校・企業等）

2 効率的・機能的な学校組織の改革による余力ある組織力向上と環境整備

業務を縮減して個人の時間を生み出し、個人と組織のより高いパフォーマンスを引き出す、という視点で大規模併置校である鹿本学園の現状に応じた組織体制や各会議の改善や見直しを継続する。働き方改革の推進につなげ、ライフ・ワーク・バランス、ウェルビーイングの充実を図る。

3 防災教育の充実

様々な災害を想定し、少人数でも機能的に対応ができる環境整備（備蓄品・運搬）と防災体制を再構築する。

4 専門性の向上と人材育成

現在の学校のニーズに応じた活用を積極的に進める。外部専門員や近隣等の学校との協同による教育活動を通して、専門性の高い人材を育成する。また職種に応じた育成のための意図的計画的な役割を充てることで、組織的な人材育成や管理職候補者の発掘・育成を図る。

5 デジタルとアナログの充実

教育活動のデジタル化と執務のデジタル化を推進する。そのための校内環境の充実やデジタル指導力の向上を図る。教育活動面では、デジタルを活用した指定事業の取り組みを着実に進めると共に、配備されたタブレット端末を全ての教育活動で活用し、新たな学習活動の創出にチャレンジすると同時に、児童・生徒が実際に経験・体験することの教育活動も大切にする。

IV 今年度の取組目標と方策（S=肢体不自由教育部門、N=知的障害教育部門）

1 重点目標と方策

(1) 併置型学園としての魅力・特色を充実・発展させ、発信・拠点を推進

数値目標 「両部門合同の行事や活動を推進し、HPや動画による情報発信に取り組んでいる。」 $\geq 80\%$

○特色化/併置型学園としての特色ある教育活動の充実・発信

- ・ICT機器、デジタルを活用した新たな学び、新たな活動の創出
- ・各学部、各教育課程での育てたい力の明確化と、PDCAサイクルによる授業改善「鹿本の学びの構築」
- ・部門交流/併置型学園としての特色ある教育活動の継続・発展（学園内交流教育他）
- ・地域連携/地域共生社会への参画（広報活動、親和性を高める催し、地域支援による関係性強化）
- ・地域連携・進路/高等部卒業後を見据えた教育の推進と保護者への理解啓発（水元小合・臨海青海との連携）

(2) 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力の向上と環境整備

数値目標 「組織的・効率的な業務改善、DXの推進やライフ・ワーク・バランスの意識向上」 $\geq 80\%$

○働き方改革/組織的・効率的な業務改善の推進、ライフ・ワーク・バランスの意識向上

○業務改善/ICT機器、デジタル技術を積極的に活用した合理的・効率的な業務遂行

- ・分掌組織の見直し 業務分担の検討や配置人数の検証と再構築
- ・教育課程（特に下校時間）の見直しと会議の在り方の検討 実施回数の縮減や時間の短縮
- ・職場内コミュニケーションの活性化、ウェルビーイングの向上、時間割内での個人業務時間の確保

(3) 防災教育・体制の見直し

数値目標 「地域や学校の実態に応じた防災体制の向上」 $\geq 80\%$

○想定外を想定内にするために防災教育・体制の再構築

- ・災害時の円滑かつ機能的な備蓄品の整備及び酒設備
- ・発災後の初動体制の強化（トイレ等の衛生環境・個に合わせた備蓄品の確認）
- ・学校スタッフの防災体制の再確認

(4) 専門性ある人材を活用した教育の充実

数値目標 「特別支援に関する高い専門性と知識に基づく指導の充実

／外部専門員や近隣の学校と協同した授業改善や教材の充実」 $\geq 90\%$

- ・資質向上/S学校介護職員と教員の協働体制の充実と人材活用及び専門機関連携による専門性向上
- ・企業連携/外部からの専門員及び自立活動専門員・教育支援員と教員の協働体制の確立と人材活用
- ・指導改善/S学習指導アドバイザー等専門員を人材活用した授業者支援・保護者支援
- ・人材活用/N外部専門員を活用した教育環境整備、授業改善、校内研究の充実及び教材充実

2 目標と方策

<学習指導>

教育課程の充実 — 社会参加に向けた確かな学力の獲得 教育課程の充実 —

- ①3年間指導計画、教材や指導案の共有化に向けた取り組みの推進（年間指導計画、教材の充実）
- ②計画と評価の共有の基づく指導の充実・改善（個別指導計画、通知表、年間指導計画）
- ③カリキュラム・マネジメント（教員・教科間の連携）と時間割の検討
- ④全ての教育活動でのICT（タブレット・パソコン・視線入力装置・スイッチ等）の利活用

授業力の向上 — 個に応じた学習指導の充実 —

- ⑤授業者支援会議の計画的な実施と、指導・助言の内容（改善のヒントやノウハウ）の蓄積と共有
- ⑥学習指導アドバイザー等、外部専門員を活用した授業者支援
- ⑦外部専門員（教材作成アドバイザー）を活用した教材作成の推進（1教員1教材の作成）

言語能力の向上と読書支援の推進

- ⑧読書活動（読み聞かせ、調べ学習）の推進・充実と図書館運営の改善・効率化と積極的な情報発信
- ⑨プログラミング教育やプログラミングを取り入れた学習活動の推進

<生活指導>

安全・安心な学校生活を送れる生活指導體制の構築

- ①通学安全／通学環境の整備（SB 発着体制、送迎車両対応、一人通学指導ステップ、通学路点検）
- ②避難訓練／外部評価を活用し、児童・生徒の実態に応じた、より現実的な避難訓練への改善
- ③宿泊防災訓練／引き渡し訓練／障害特性を踏まえた訓練の実施と感染症への対応、校内体制の改善
- ④施設安全／施設・設備利用に関する安全な利用方法の徹底（飛び出し・迷子・けがの防止、安全表示）
- ⑤事故防止／事例に基づく再発防止策の徹底（事故原因の分析・共有、再発防止訓練）

いじめ・体罰の禁止根絶と生命尊重教育の推進

- ⑥人権教育の推進とアンケートによるいじめの未然防止と体罰の禁止・根絶の徹底
- ⑦「SOSの出し方教育」等、都教委作成指導資料の活用、児童・生徒への相談先の周知
- ⑧人権尊重の観点から児童・生徒の呼名は「さん」付けを徹底し、校内の言語環境の改善・充実を図る。

<進路指導・キャリア教育>

両部門卒業後を見据えた指導計画の改善・充実・発信

- ①キャリア発達の視点を重視した学習活動の展開と教職員のキャリア教育に関する意識醸成（進路学習）
- ②各種検定試験や資格試験等への取り組みの積極的な推進
- ③学部毎のゴールを明確にしたキャリア教育の推進（レインボーファイル、進路講演会、キャリア教育）
- ④進学及び卒業後の社会参加を見据えた進路学習及び保護者支援の充実（進路先体験、現場実習、受験対策）

<特別活動・部活動>

感染症対策を含めた安全な実施 と 新たなノウハウの蓄積による活動の充実

- ①全校行事や宿泊行事、校外学習の再検証及び体験を重視した活動の充実
- ②適正な活動計画に基づく安全・安心な部活動の充実と、各種大会への参加の推進
- ③近隣の学校や関係機関と連携した活動の推進（交流活動、児童・生徒会、主権者教育 他）
- ④副籍交流の円滑な推進（活動内容の改善・充実、実施校との連携や実施体制の整備・充実）

<保健・給食>

組織的な保健体制による健康管理 と 安全で美味しい給食の提供と指導

- ①健康管理や健康診断、カウンセリング等各種相談の適切な実施
- ②養護教諭、教員、学校介護職員、看護師の円滑な連携による保健室機能の充実
- ③都方針に基づく安心・安全な医療的ケアの実施と各種新事業の着実な推進
- ④医療的ケア専用通学車両の乗車二ースに応じた安全・円滑な対応、および医療的ケア体制の整備・充実
- ⑤医療的ケアに関するインシデント・アクシデント情報の周知と事故再発防止の徹底、研修実施
- ⑥学校介護職員を活用した医療的ケア体制の早期整備と一層の充実
- ⑦摂食指導の適性・円滑な実施と安全で美味しい給食の提供と楽しい給食タイムの工夫（給食体制）

<地域連携と広報活動>

地域支援力の向上 と 地域連携・広報活動の充実

- ①区教育委員会、区福祉部や児童相談所等、地域の関係機関との連携や、区内各学校のコーディネータとの情報共有により、障害のある児童・生徒及びその保護者へのきめ細かな対応を支援する。
- ②地域の学校・施設への支援：公開研修会、巡回指導、出前授業、副籍交流に関する事業、センター的機能、放課後等デイサービス事業所との連携
- ③就学支援/学校公開、教育相談
- ④地域発信/学校外活動等の情報発信や地域向け情報発信、教育活動の成果のHP 発信
- ⑤地域防災訓練や本校宿泊防災訓練への相互参加、公開行事等の案内チラシの地域配布による連携推進
- ⑥近隣の学校や施設及び大学・専門学校等による協同的な学びの充実

<学校経営>

教職員のウェルビーイングの向上及び組織的・機能的・主体的な学校運営の推進

- ①児童・生徒の増加に対する、教育内容・教育環境の組織的・計画的な対応の継続
- ②ウェルビーイング、ライフ・ワーク・バランスの向上/教職員のコミュニケーションのための時間の確保
- ③服務規律、個人情報管理を徹底（クリーンデスク、個人情報の収受の徹底等）
- ④「情報」を迅速に共有し、「共通理解」のもと組織として対応を強化
- ⑤経営企画室と教員が連携し、執行率を意識した適正な学校予算の執行の実施
- ⑥主幹教諭と主任教諭が核になる学校運営の強化（主幹会議の充実）